

## Tazaki 財団英国留学奨学金留学成果報告書

## 一 橋 大 学

所属学部・学年	経済学部 4年	氏名	尼崎現介
派遣先国 (地域)	イギリス	派遣先大学	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン
派遣期間	2023年 9月 ~ 2024年 6月		

## 留学目的の達成度・留学成果について

私の留学目的として、授業を通して勉学に励むことはもちろん、生涯続くような深い交友関係を築くことが出来たらいいなと考えていました。コミュニケーション能力や英語力を養うためという理由もありますが、日本の大学に通ってはいなかなか体験することが出来ない、様々な文化・環境の下で育ってきた学生たちと交流することに好奇心を持っていたことが最も大きな理由でした。UCLはダイバーシティにとっても富んでいる大学であり、キャンパスを歩いているだけで多種多様な生徒を見ることが出来ます。例えば私が住んでいた寮のフラットには、中国人、シンガポール人、オランダ人、フランス人が住んでいました。このような環境があるUCLは私にとって完璧な学校だと感じました。一緒にゴルフコースを回ったり、寮のコモンスペースで夜遅くまで喋ったり、彼らのヨーロッパにある実家を訪問するなど、ロンドンで出会い親睦を深めた友人と共に過ごした時間こそが、私の留学において最も価値のある経験、また留学の成果だと考えています。

## 海外での生活について

私にとって、初めての一人での海外生活でした。最も苦労したことは生活費の工面でした。一時期は1ポンドが205円を超えるなど滞在中に円安ポンド高がより進展したことや、ロンドンの物価の高さなどにより、お金を大切に使う必要性に迫られました。想像を絶する外食費用の高さを踏まえ、自炊を繰り返す中で自炊力を身に着けました。限られた予算の中でどこかの費用を削り、一方でどこにお金を使うかを常に考える中で、自己管理能力を得ることが出来ました。また銀行手続きや機材トラブルなどを理由に英語で電話交渉を何度も行うなど、後に生きる価値のある経験を積みました。また勉学が落ち着き余裕がある時には、ロンドンから他の欧州の都市へのアクセスの良さを利用して旅行を繰り返し行いました。日本に住んでいては経験出来ない一生の思い出になりました。

## 派遣先大学の授業内容について

私は **European Social and Political Studies** という学部の授業を中心に、経済学や歴史学など様々なコースを履修しました。1学期には、国際政治における国家間の対立・協力について様々なセオリーを適用して研究する科目やアダムスミスなど著名な経済学者の思想について学ぶ科目、またフェミニズムについて研究する科目も履修しました。2学期には、国際政治経済学や中東政治からドイツのホロコースト、英国の医療システム NHS まで、ある一つのトピックに絞らず多様な分野の科目を履修しました。UCLの授業は主に、教授が一方的に講義を行う形式の授業と、生徒が主体的にディスカッションやプレゼンテーションをする形式の授業が、一つのコースにつき週に1コマずつ行われました。また学期末に莫大な量のレポート提出が求められ、友人と情報交換や協力をしながら課題に取り組みました。英語でのエッセイ作成を繰り返す内に英語のライティングスキルが大きく成長した実感があります。また授業中でのディスカッション参加に当初は苦労したものの、少しずつ発言量を増やしていく中で自分のスピーキング力に自信がついていきました。

## 今後の学習・進路への影響について

留学前から経済学への興味はあったものの、留学経験を通して政治学など他の分野の学習にも関心を持つようになりました。経済学と全く異なるように見える学問、例えば英国の医療制度研究がどう経済学に密接しているのかも学ぶことが出来、とても面白かったです。進路に関しては、留学前からグローバルな人材として働きたいという夢がありました。元々帰国子女であるため自分の英語力に自信があったからです。ロンドンでの留学を経て、この気持が更に強くなりました。また、海外の学生との共同作業を行い会話を重ねることで、将来自分がグローバルな仕事場で活躍することが出来ると確信することが出来ました。

#### 寄附者への謝意

Tazaki 財団の皆さまの経済支援のおかげで、親に大きな負担をかけずにロンドン留学が出来たことを心より感謝致します。ご支援により、私の行動範囲を広めることが出来、また自分がやりたいことを満足に成し遂げることが出来ました。この貴重な経験を後輩たちに強く薦めると共に、将来日本とイギリスの人的・経済交流の発展にささやかな貢献をしていきたいと思いをします。